第１学年「技術・家庭科」シラバス

教科の目標

◎ 生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活の技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点・方法

《評価の観点》
- ○　知識・技能
- ○　思考・判断・表現
- ○　主体的に学習に取り組む態度

《評価の方法》
- ○　プリントやレポートによる評価
- ○　授業観察による評価
- ○　自己評価や相互評価による評価
- ○　発表や話し合いによる評価
- ○　定期テストによる評価
- ○　作品の製作

特色ある学習方法

○ ものづくりや衣食住などに関する実践的・体験的な学習を行う。

○ 実践的・体験的な学習を通して、創意工夫する力を育てる。

○ コンピュータの活用を通して、必要な情報を収集し活用する力を養う。

	学習内容	学習のねらい
前期	○ガイダンス	○３年間の学習内容を知り、見通しを持つ。
	○技術の役割	○技術の役割を考える。
	○材料の特徴と利用法 ・材料に適した加工法	○組織、加工法、利用法、構想の表示方法を知る。
	○製作品の構想と表示　方法	○製作図をかくことができる。
	○製作品の組み立て ・製作工程・材料取り ・部品加工・組み立て ・仕上げ	○製作の手順・方法を理解し、設計に基づいて、製作品を仕上げることができる。
	○環境とのかかわり	○学習の評価と活用ができる。
	○生活とコンピュータ ・基本操作 ・ソフトウエアの利用	○コンピュータの構成と情報処理の仕組みがわかる。 ○ワープロソフト(WORD)を使うことができる。
	○生物の育成 野菜の栽培	○生物の計画的な栽培方法を理解する。 ○栽培計画を立て野菜を育てる。
後期	○家庭分野ガイダンス	○３年間の学習内容の見通しをもつ。
	○自分の成長と家族・家庭生活	○家庭の基本的な機能について気づく。
	○健康な食生活 ・食事の役割と食習慣	○食事の役割について理解し、毎日の食事に関心をもつ。
	・中学生に必要な栄養を満たす食事	○中学生の身体的特徴を理解し、中学生に必要な栄養の特徴がわかる。
	・さまざまな食品とその選択	○生鮮食品と加工食品の特徴がわかる。 ○食品の安全や情報に関心をもって選択できる。
	・日常食の調理 肉、魚、野菜の調理 ・地域の食文化	○調理の流れや手順がわかり、簡単な日常食の調理ができる。 ○おいしさと調理の関係を理解する。 ○地域の食材を使う意義と和食の調理を理解する。

第２学年「技術・家庭科」シラバス

教科の目標

◎　生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活の技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点・方法

《評価の観点》
- ○　知識・技能
- ○　思考・判断・表現
- ○　主体的に学習に取り組む態度

《評価の方法》
- ○　作品の製作による評価
- ○　プリントやレポートによる評価
- ○　授業観察による評価
- ○　自己評価や相互評価による評価
- ○　発表や話し合いによる評価
- ○　定期テストによる評価

特色ある学習方法

- ○ ものづくりや衣食住などに関する実践的・体験的な学習を行う。
- ○ 実践的・体験的な学習を通して、創意工夫する力を育てる。
- ○ コンピュータの活用を通して、必要な情報を収集し活用する力を養う。

	学習内容	学習のねらい
前期	○家庭生活と消費 ○購入・支払いと生活情報 ○消費者被害と消費者の自立 ○持続可能な社会 ○目的に応じた衣服の選択 ○日常着の手入れと保管 ○生活を豊かにするものの製作 ○持続可能な衣生活 ○住まいのはたらきとここちよさ ○安全な住まいで安心な暮らし ○持続可能な住生活 ○日常食の調理 ○肉、魚、野菜の調理	○消費生活のしくみがわかる。 ○生活情報の収集や活用の仕方を理解する。 ○予防方法がわかり、自立した消費者をめざす。 ○SDGsの取り組みを考える。 ○衣服の社会生活上のはたらきがわかる。和服の文化に関心をもつ。 ○取扱い表示の意味を理解し、適切な手入れができる。 ○布を用いて作品を製作する。 ○資源や環境に配慮した衣生活を考える。 ○住まいの役割と空間の使い方を理解する。 ○家庭内の事故や災害など安全を考えた住まい方について理解する。 ○調理の流れや手順がわかり、簡単な日常食の調理ができる。
後期	○エネルギーの変換と利用 ・熱、動力、光エネルギー等への利用 （実　習） ○製作品の設計と製作 ・構想・機能、構造、材料 ・製作工程 ・使用工具 ○エネルギーと社会 ○表計算ソフト（Excel）の使用方法を知る。	○生活の中での電気の利用形態、発電の仕組みとその特徴、及び社会への影響を理解する。 ○かんたんな電気回路を製作し、その方法や工具への認識を深め、電気エネルギーの利用についての理解を深める。 ○社会におけるエネルギーの役割と重要性を理解する。 ○表計算ソフト（Excel）を使うことができる。

第３学年「技術・家庭科」シラバス

教科の目標

◎ 生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活の技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点・方法

《評価の観点》
- ○　知識・技能
- ○　思考・判断・表現
- ○　主体的に学習に取り組む態度

《評価の方法》
- ○　作品の製作による評価
- ○　プリントやレポートによる評価
- ○　授業観察による評価
- ○　自己評価や相互評価による評価
- ○　発表や話し合いによる評価
- ○　定期テストによる評価

特色ある学習方法

○ ものづくりや衣食住などに関する実践的・体験的な学習を行う。

○ 実践的・体験的な学習を通して、創意工夫する力を育てる。

○ コンピュータの活用を通して、必要な情報を収集し活用する力を養う。

	学習内容	学習のねらい
技術分野	○コンピュータの構成と情報処理の仕組み	○ソフトウェアを用いて基本的な情報処理の仕組みを知る。
	○デジタル作品の設計・制作	○多様なメディアを複合し、表現や発信ができる。
	○情報モラル ・情報化社会の光と陰 ・著作権	○情報化社会の光と陰について理解を深め、モラルの必要性について関心を高める。
	○プログラムによる計測・制御	○情報処理の手順を考え、簡単なプログラムが作成できる。
	○金属を使ったものづくり	○作業手順を考えて作品を製作する。
家庭分野	○幼児の生活と家族 ・幼児のころと今の自分 ・幼児の体と心の発達 ・発達にとってのおとなの役割 ・遊びが必要性と遊びを支える環境	○心身の発達の特徴や基本的生活習慣の重要性を知り、家族の役割について理解する。 ○自分の実践的・体験的な活動を通して、遊びの意義を理解する。
	○幼児とのかかわり ・ふれ合い体験 ・子どもの成長と地域	○幼児とのふれ合い体験を通して幼児の成長や生活習慣の特徴を理解する。
	○家庭生活と地域のかかわり ・家庭生活と地域での活動 ・地域に暮らす高齢者とのかかわり	○地域との相互のかかわりを理解する。 ○地域で活動する高齢者とのかかわりを考える。
	○持続可能な家庭生活	○誰もが尊重される家庭・地域の生活をめざして、課題を見つけ、実践に取り組む。
	○３年間をふり返って	